■国際会議レポート

オーストラリア・ニュージーランド・ スポーツマネジメント学会2018年大会

The Sport Management Association of Australia & New Zealand 2018

醍醐笑部（早稲田大学）

オーストラリア・ニュージーランドスポーツマネジメント学会 2018 がアデレードにて行われた。13 カ国から 105 名（事前申込）が集まり、日本からは 9 名が参加、各国の研究者らと有意義な時間を共有した。今回のホスト校は南オーストラリア大学、学会大会委員長は Ian O' Boyle（南オーストラリア大学ビジネススクール准教授）であった。参加者数は前年ゴールドコーストにて開催された学会大会の半数と小規模ではあったものの、上記事前申込者のうち約 80 名は研究発表者であり、各国からの研究者らが自身の研究を報告し、議論しあう活発かつクリエイティブな大会であった。

1 日目（11 月 21 日）

HDR Students Workshop

HDR とは High Degree Researcher の略で、おおそ日本の博士課程後期学生のこと。アーリーキャリアの研究者も参加することができる。今回は 3 つのパートに分かれており、Industry engagement session、Publishing session、Post-HDR careers Q&A panel が行われた。その後、学内のホールである Pridham Hall に移動し Welcome Function が行われた。

2 日目（22 日）

SMAANZ Best Paper Award Presentation

Claudio M Rocha 氏（University of Stirling, UK）によるリオオリンピック前後の住民のイベント評価に関する研究。タンジブルレガシー（エコノミック、ツーリズム、ストラクチャル）、エンバイロメントレガシー、インタンジブルレガシー（スポーツ、カルチュラル、サイコロジー）の三側面からサポート（支持）への影響を分析。

その他、SMAANZ Industry Engagement Award Presentation（ニュージーランドの野球組織に関する研究）と、Industry Panel Session が行われた。

Presentation

（発表カテゴリー：Elite and Professional Sports, Major and Mega events, Governance, Gender, Sport Industry Engagement, Social Media, Sport Management, Participation, Service quality and Satisfaction, Social impact, Tourism and events, Marketing）

Major and Mega events に関する発表では今年ゴールドコーストにて行われたコモンウェルスゲー

ムスに関する発表と、東京を含めたオリンピックに関する発表が目立った。

3 日目 (23 日)

Academic Key note

‘Three tenets of sport management research: Relevance, rigour, and impact’ と題して、Russell Hoye 教授 (La Trobe University) の講演が行われた。

Presentation

1) Oral Presentation

(発表カテゴリ: Elite and professional sports, Fans and Spectators Sport & Leisure Marketing/Consumer)

Behaviour, Social inclusion, Marketing, Governance and Policy, Organisational behaviour

特に印象的であったのは、Social Inclusion のセッションで、オーストラリア政府は 2017 年に同性婚を認めたが、こうした社会的流れを受けて今大会でも 3 つの LGBT やホモフォビックとスポーツに関する研究が発表された。日本においても LGBT とスポーツをテーマとした情報発信拠点「プライドハウス東京」が設立され、日本スポーツ協会によってスポーツ指導者の LGBT の人々との関わりが調査されるなど重要なテーマであると言える。

2) Enlightening Talk

昨年より始まったベチャクチャスタイルでのプレゼンテーション。20 枚のスライドが 1 枚 20 秒で自動的に進んでいく。学術研究よりも、授業や現場で実践していることとセオリーの関係や、これから始める研究のシードなど、短時間でテンポよく伝えたい内容に向いている。ノンネイティブ

写真: 日本からの参加者 (カンファレンスディナー会場にて)

の我々には相当ハードルが高いと感じるが、韓国の学生が発表しており 2 年目にして参加者も発表内容も広がりを見せているのが印象的であった。

AGC Meeting and Conference dinner

一般発表後は総会を行い、カンファレンスディナーへ移動。アデレードオーバルにて約 1 時間のカクテルパーティと、その後スタジアム内のレストランにてディナー。2019 年は、12 月 4 日から三日間の日程で、ニュージーランドのクライストチャーチにて開催予定である。

以下、日本からの発表者の研究題目。

(下線：発表者)

発表題目と発表者（プログラム順）

The Changes of Interests in Sports and Sport Environment: Comparison Analysis between Japan and Korea <u>Jeong-Beom Hahm</u> , Tae-Ahn Kang & Hirotaka Matsuoka
The Influence of mega sports event on university students' sport values: A case study of the commonwealth games and a future vision for Tokyo 2020 <u>Ebe Daigo</u> , Seiichi Sakuno, Kazuhiko Kimura & Graham Cuskelly
Examining impacts of the IOC' s "relaxation" of Rule 40: Comparing Olympians' social media activities in London 2012 and Rio 2016 Olympic Games <u>Akiko Arai</u> & Satoshi Takahashi
Assessing positive and negative social impacts of hosting mega a sport event <u>Hirotaka Matsuoka</u> , Tae-Ahn Kang & Daichi Oshimi
Comparison among spectator segments: Focusing on knowledge of rugby and influence of hosting the 2019 Rugby World Cup <u>Yukako Wada</u> , Hirotaka Matsuoka & Tae-Ahn Kang
What motivates wheelchair basketball spectators towards 2020 Tokyo Paralympic Games? <u>Rei Yamashita</u> , Masaya Muneda, Yurie Miyamoto, Naoya Satake & Makoto Fujisaki
International comparison between New Zealand and Japan of secondary school club sports <u>Tatsuru Nishio</u> , Kozo Tomiyama, Susan Hassall, Nigel Hotham & Marie Gordon
The Role of Perceived Value of Ticket Price in Attendance Intention <u>Tae-Ahn Kang</u> & Hirotaka Matsuoka